

2024年度

事業計画書
収支予算書

一般財団法人日本特許情報機構

2024年度事業計画

・事業方針

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行し、通常の生活を取り戻すことができましたが、その一方で世界に目を向けると、戦争や紛争が広がり、それによる緊張状態の広がりから、経済においても安全保障が問われる状況にあります。このような、不確実性が増し、様々な問題が複雑に関係する時代において、山積する社会的な課題にどう対応していくのか、非常に難しい課題に私たちは直面しているなか、新しいビジネスを生み出し、経済を維持・発展させていく源泉であるイノベーションやデザインへの期待は、これまで以上に高まっています。これらイノベーションやデザインを推し進めるには、知財情報の世界的規模での迅速かつ総合的な収集・整備、及び、それらへの容易なアクセスがインフラとして必要不可欠であります。

当財団は、このような変化に対応すべく、「質の高い特許情報を提供することにより、経済・社会に貢献する」という経営理念の下、AIなど最先端の技術に関する研究を進めるとともに、変革の波を着実にとらえ、ユーザーニーズにマッチする技術を実装していくことで、特許情報ユーザーの皆様にご満足いただけるサービスを提供し、さらに、知財情報業界全体をより活性化すべく、努力してまいります。

特許庁をはじめとする政府の知的財産に関する施策に協力する立場から、当財団では、特許情報の翻訳及び普及、商標の調査解析や審査協力、意匠の審査資料の整備等を安定的かつ的確に実施していくとともに、今後の業務の複雑化に対応可能なスキームの調査・検討及び体制の構築を進めます。

また、特許情報ユーザーにとって必要なニーズを的確に把握しつつ、常に最新の技術を取り込むことで、特許庁等の知的財産に関する施策に協力し、AI技術の高度化、機械翻訳技術の多言語化、脱炭素やSDGsなど社会的課題へのAI技術の応用等について一歩先を見据えた研究開発の促進と、その成果を用いたサービスの向上に努めてまいります。

一方、政府機関からの発注方式につきましては、競争入札の強化により、熾烈な価格競争の状況が生じておりますが、当財団では、このような状況のなか、品質の確保を大前提とした上で、最新の技術を活かした業務の効率化を合わせて検討していきます。特許庁からの受託事業につきましては、商標関連事業等の主要案件について、2024年度の事業として継続受注が決定しております。

当財団の自主事業としては、「世界特許情報全文検索サービス（Japio-GPG / FX）及び「Japio-AI翻訳」について、データ及びサービス機能の拡充を図ってまいります。

また、「知財・情報フェア&コンファレンス」の主催による特許情報活用の有効化、我が国産業界全体の国際競争力の強化に資する日本語（産業日本語）に関する研究・普及活動により翻訳の品質向上を図るとともに、出願書類等の複写サービス等、公益

性の高い民需事業を実施してまいります。

さらに、中小企業等特許先行技術調査支援事業及び意匠権調査等により、調査・相談・情報提供等、知財活用に対する支援を継続して行うとともに、特許情報ポータルサイトの充実を図ってまいります。

これらの推進のために、情報サービス拡販活動をより活発化するとともに、実施体制を一層整備してまいります。

特許情報研究所では、大学及び企業等の外部の人材を活用し、外部機関と連携しながら、AI技術の高度化、機械翻訳等の当財団事業の技術力の向上、新規事業の創設に繋がる研究開発を行い、財団としての力の底上げを図ってまいります。

当財団の各事業を推進するに当たり、引き続き「総合的な競争力の強化と事業革新の創出」を経営目標に掲げ、以下の4点を念頭に、強固なインフラの構築を視野において財団の基盤強化と積極的な事業展開を行ってまいります。

(1) 品質の高いサービスの提供による顧客満足度の向上

当財団で取得しているQMS、ISMS及びプライバシーマークの認証制度による、マネジメントサイクル(PDCA)を継続的に運用することにより、業務の見直しを恒常的に行い、ユーザーの皆様信頼される品質の高いサービスを提供するとともに、顧客満足度の向上に努めます。

(2) 組織力の強化と更なる業務改善によるコストの削減

財団の事業内容の変化に応じて、専門性を高めた業務管理体制を構築して業務推進力を強化するとともに、事業のブラッシュアップを継続的に推進し、また、更なるコスト削減により、財団全体の組織力の強化と、収支の均衡に努めます。

(3) 人材の育成と新分野の開拓

財団の事業推進力を強化するため、職員の専門的資質の向上を図るとともに、チャレンジ精神に富む、多様化するニーズに対応できる職員を育成して、新たな事業領域にも積極的に取り組みます。

(4) コンプライアンスの確保と情報共有の推進

公益目的事業を実施する法人として適正な組織統治とコンプライアンスの確保のため、法令遵守に留まらず、社会規範として求められる倫理観に基づいて、役職員が公平・公正に行動するための行動規範の確立に努めます。

また、財団内に蓄積された知識と経験の一層の共有化を図ります。

当財団は、引き続き我が国の特許情報施策の一翼を担い、社会の多様な変化に的確に対応して、社会的責任を果たしていくことを目指してまいります。

・事業計画の概要

2024年度においては、次の事業を行います。

1．特許情報の調査等事業

(1) 商標審査及び審判効率化等のための調査資料作成業務

商標審査及び審判に資する調査資料の作成業務を、以下のとおり行います。

商標審査前サーチレポート（商標の文字部に関する識別力等調査）作成

商標審査前サーチレポート（図形商標の先行絞り込み調査）作成

商標審査前サーチレポート（不明確な指定商品・役務に係る調査）作成

第三者による商標使用等に関する事前調査

(2) 商標の拒絶理由横断調査事業

特許庁における商標登録出願の拒絶理由該当性に係る各種調査の一部について、審査効率を高め、迅速かつ的確な審査処理に資する調査報告書の作成を行います。

(3) 中小企業等特許先行技術調査支援事業（公益目的支出計画事業）

特許情報を通じて中小企業、大学等の知財活用を支援する観点から、中小企業等の方々の特許出願を対象として、審査請求を行うか否かの判断材料となる特許先行技術調査の調査費用の一部を負担します。

特定登録調査機関である一般財団法人工業所有権協力センター（IPCC）の協力を得て、国内特許文献の調査報告書（特定登録調査報告書）とともに、当財団の世界特許情報全文検索サービス（Japio-GPG / FX）を使用した外国特許文献の先行技術調査結果を提供することで、海外へ特許出願を行う中小企業等の支援を行います。

(4) 国際ブランド調査

商標検索に関する専門知識を活用し、各国が提供する公的データベースを利用した国際ブランド調査を実施します。

(5) 意匠権調査

企業の新製品・新デザイン開発・実施にあたって不可欠な他社の意匠権情報や権利侵害の予見を得るための意匠権調査、特許庁への意匠登録出願前の登録可能性判断、早期審査・審理のための先行意匠権調査等を行います。

2．特許情報の加工・普及等事業

(1) 海外特許情報に関するデータ作成・解析及び提供事業

海外の特許庁から提供される特許情報を対外提供するため、データ成形及び対外提供サービスの構築を行い、国ごとに異なる特許情報を統一した形式に成形したうえで、日本語あるいは英語への機械翻訳を実施し、一般利用者向けサービスでは海外の特許情報の検索・照会を、特定利用者向けサービスではAPIによる特許情報の取得を可能にします。また、管理者用の機能として、データ成形機能及び各種

の管理機能を実装します。

本事業ではさらに、上記対外提供サービスの利用状況に基づき、機械翻訳、海外特許情報の提供及びAPIによる特許情報の提供という三つの観点からの調査を行います。

(2) 商標検索効率化のための資料作成等業務

商標の検索効率化に資する資料作成等業務を、以下のとおり行います。

商標見本の解析及びデータ作成(国内、マドプロ、サブデータ案件)
マドプロ案件に係る指定商品/役務名等の翻訳及び類似群コード調査

(3) 登録意匠と公知資料及び外国意匠公報資料のグルーピング事業

特許庁が整備した公知資料及び外国意匠公報資料の中から、我が国で登録した登録意匠の実施品や改良品など、登録意匠と同一又は類似の意匠を抽出しグループ化を行うとともに、グループ化された審査資料の意匠に関する実施権利及び許諾等の情報の調査を行います。

(4) 意匠の審判決における新規性・創作性等の判断に関する調査

日本・米国・欧州連合(EU)・中国・韓国の主要5か国・地域における意匠に関する審判決及びそれらの中で用いられた意匠情報を収集するとともに、意匠の表現や判断理由等を調査し、特許庁の審査の質の向上に資する資料を作成します。

(5) その他産業財産権情報に係る資料作成等業務

特許・実用新案の検索効率化に資する業務として、三極特許庁交換データ用の特許・実用新案書誌データ及びIPCインバーテッドファイルの作成、実用新案公報の機械翻訳を行います。

3. 情報提供サービス事業

(1) 世界特許情報全文検索サービス(Japio-GPG/FX)の拡充

本サービスは、世界主要国/地域・機関(日本・米国・欧州・中国・韓国・WIPO・独国・仏国・英国・台湾、カナダ)の特許公報全文を一度に日本語ダイレクト横断検索ができるほか、公報データ及びフリーテキストのAI翻訳、更に公報の要約、クレームなどの機械翻訳文のダウンロードができるサービスです。2022年11月には、AI推定による日本国公開公報の、SDGs目標値とスコアを蓄積し表示できるようにいたしました。また2024年1月より各国のデータ更新の早期化を実現しました。今後もユーザーニーズを踏まえたデータベースの拡大、検索機能の充実、AI翻訳の向上などを実施し、サービスの拡充、多様化への取り組みを進めます。

(2) 特許情報のワンストップポータルサイトの充実

当財団が運営する特許情報ポータルサイト「Patent World by Japio」を通じて、海外の特許庁及び公的機関が提供する無料の特許情報検索サイト等、ユーザーに有用なサービスサイトの収録を充実するとともに、中小企業等の知財活用の支援となる情報の提供を行います。また、特許情報研究所で開発したAI翻訳機能を一部無

料で利用できるサイトを提供します。

(3) 翻訳関連事業の展開

特許情報研究所における翻訳と検索に関する研究開発の成果を生かした翻訳関連事業を展開します。

日本特許文献等の英訳事業

独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）による公開特許公報の要約等の英語翻訳物作成事業に参画し、日本の公開特許公報の要約ならびに発明の名称の英訳事業（約3.7万件予定）を行う等、日本語から英語への翻訳コストを削減するため、ユーザーニーズに即して、機械翻訳及び人手翻訳を活用した翻訳事業を展開します。

Japio-AI翻訳の拡充

当財団において研究を重ねてきた機械翻訳研究の成果である「AI翻訳」エンジンを活かした翻訳支援サービス、Japio-AI翻訳では、現在までに、日本語から英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語、及び、英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・ポルトガル語から日本語への翻訳サービスを提供しています。

Japio-AI翻訳は、特許翻訳者、翻訳会社、特許事務所等の事業活動に寄与するサービスであり、サービスの拡充、多様化への取り組みを進めます。

(4) 出願書類等の複写サービス業務

出願書類複写、引用文献取寄せ、優先権証明書請求及び特許公報複写関連の業務を行います。

電子包袋については、電子メール及びCD-Rでの提供を行います。

紙書類に対する納品に関しては、電子データでの提供も行います。

4. 研究・開発事業

これまで進めてきた機械翻訳、情報検索及び日本語処理に関する研究開発を更に発展させ、幅広く産業財産権に関する情報処理及び情報提供に係る研究・開発業務を行います。

(1) 機械翻訳に関する研究開発

機械翻訳技術について、特許文献の機械翻訳の精度・効率向上に資する、コーパスの構築と特許機械翻訳システムの改良に向けた研究・開発を進めます。

特に、Japio-GPG/FXのオプションサービス及びJapio-AI翻訳に活用している「AI翻訳」エンジンに関して、機械翻訳の翻訳精度と翻訳速度の一層の向上を図るとともに、ユーザーニーズ及び利用結果を収集することで、商用サービスでの利用に適した更なる改善を進めます。

これらにより、日本語と英語・中国語間の機械翻訳精度を更に向上させるとともに、ドイツ語、フランス語、韓国語、中国語繁体字（台湾）、ASEAN言語、ロシア語等から日本語へ、日本語から外国語へ等の機械翻訳の多言語化を目指します。

また、当財団の公益目的支出計画事業のひとつとして、アジア太平洋機械翻訳

協会（AAMT）に設置している「AAMT/Japio特許翻訳研究会」において、産学連携による特許機械翻訳の調査・研究を継続して推進します。

（２）人工知能の活用と検索に関する研究開発

2018年2月に設立した知財AI研究センターを中心として、人工知能と特許情報資源を活用した特許文献及び特許図面の検索技術、意匠・商標の調査・解析技術の開発等に向けて、特許・意匠・商標検索における課題と人工知能に対するニーズを明確化するとともに、人工知能の専門家及び研究機関との協力体制を活用して、商用サービスへの導入に向けた研究を進めます。

日中英の技術用語の異表記展開、日中英の企業名・発明者対訳テーブル、名揺遷データ等の言語資源による検索支援ツールの機能拡充、特許技術用語データベースの構築等、当財団保有資源の活用を含む特許検索の利便性と精度の向上についての研究開発を進めます。

図形商標の検索などを始めとする商標調査・解析技術についても、AI活用という解決手段のみにこだわらず、業務の効率化及び更なる精度向上のための研究開発を進めます。

（３）社会的課題を解決する技術の特許情報の分析に関する研究開発

持続可能な開発目標（SDGs）及びカーボンニュートラルに関連する技術の特許情報について、人工知能を活用して可視化する技術等の研究開発を進め、2021年4月にはSDGs技術の分析結果を発表し、9月にはカーボンニュートラル技術の分析結果を発表しました。これは、ESG投資に資する分析情報であり、上位にランキングされた企業では、自社のIR情報などに活用されています。また、2021年10月からは「技術の見える化データ提供サービス」としてデータ販売を開始しました。

分析結果の発表にあたり、知財AI研究センターの特設サイトを用意し、研究成果を広く公表しています。また、当財団の活動を親しみやすく紹介するため、ゆるキャラの「にゃぴお いただきます」によるSNSを通じた情報発信も行っています。

（４）日本語処理に関する研究開発

曖昧さ（係り受け、照応）に富んだ日本語を、産業・技術情報を人に理解しやすく、かつ、コンピュータ（機械）にも処理しやすく表現するための日本語（産業日本語）にする「産業日本語プロジェクト」を継続し、産業・技術文書のライティングに関する調査研究を推進します。また、「第16回産業日本語研究会・シンポジウム」を開催します。（公益目的支出計画事業）

5．国際関係事業

ヨーロッパやアジアでのフォーラム（例えば、欧州特許庁（EPO）による「East Meets West 2024」、中国国家知識産権局（CNIPA）による「China Patent Annual Conference」、韓国特許情報院（KIPI）による「PATINEX」）に専門家を派遣し、人材交流を行います。

また、中国国家知識産権局の下部機関である中国專利信息中心（CNPAT）と

の間で、日中の機械翻訳に関し、翻訳辞書及び文献データの交換等について協力を進めます。

6. その他事業

(1) 特許情報普及活動功労者表彰

2011年7月に解散した関西特許情報センター振興会からの寄付金を受けて運営している特許情報普及活動功労者表彰事業において、特許情報の普及活動に携わるすべての人々の意識を高め、特許情報の更なる普及と活動を支援する趣旨で、特許情報の普及、活用、研究、人材育成に顕著な功績があった個人及び団体を対象にその功績を表彰します。

受賞者については、表彰式においてその功績を表彰し、当財団ホームページに功績の内容を掲載します。

(2) 展示会の開催等（公益目的支出計画事業）

知財・情報フェア&コンファレンスの主催

最新の特許情報及び知的財産関連情報を一堂に網羅する「2024知財・情報フェア&コンファレンス」を、一般社団法人発明推進協会、株式会社産業経済新聞社とともに主催します。

また、産業財産権情報に関する当財団製品の展示等を実施します。

知財・情報フェアにおけるコンファレンスの開催

「2024知財・情報フェア&コンファレンス」では、五大特許庁（日本国特許庁・米国特許商標庁・欧州特許庁・韓国特許庁・中国国家知識産権局）と世界知的所有権機関（WIPO）の協力を得て、各機関における施策と特許情報検索サービスに関する講演等を行うコンファレンスを開催します。

(3) 「YEAR BOOK 2024」・「DESIGN PROTECT」の作成と頒布（公益目的支出計画事業）

特許情報の活用、機械翻訳と検索技術等を題材にした寄稿と、民間の産業財産権情報提供事業者による関連システム及びサービスの情報をまとめた「YEAR BOOK 2024」を作成して頒布するとともに、当財団ホームページ上で公開します。

また、デザインの保護や利用に関する文献・論文・ダイジェスト等を紹介する専門誌「DESIGN PROTECT」（4回/年）を発行します。

(4) セミナー・講習会の開催

特許・意匠・商標等知的財産の保護及び利用に関する種々のテーマについて、それぞれ専門知識を有する講師を国内外から招聘して、広く関係者の間に知的財産の保護に関する知識と理解を深める知的財産セミナー・講習会を開催します。

(5) 人材育成

人工知能及びビッグデータなど、先進的なITの活用及びITマネジメントが重要となる環境に適応して当財団の事業の推進を支える人材の素養を高めるため、IT人材育成及び語学能力向上のための各種資格の取得、先進技術を活用したOJ

Tを推進し、職員の自己改革を進めるための支援を行います。

これらにより、各種事業に求められる職員一人ひとりの資質の、より一層の向上を図ります。

(6) 情報システムの環境の整備と合理化の推進

財団事業で使用する業務システム及びデータベースについて、事業全体を視野に入れ、業務の効率化と情報資源の効率的活用を目指した横断的な最適設計と管理運営に努めます。

また、総合的な競争力を強化するため、熾烈な競争入札が行われる商標事業において、調査報告書の品質を維持しつつ事業コスト削減を図るためのシステムサポートと業務改善を進めます。

(7) セキュリティ管理、品質管理及び個人情報保護体制の維持と運用

当財団内に構築したマネジメントシステム(QMS・ISMS・PMS)の維持・運用を推進し、役職員が一丸となって継続的な改善に取り組み、品質及びセキュリティの目標を明確にし、常に業務プロセスの見直し・改善を行うことで、コストの削減及び品質の向上、顧客満足度の向上に努めます。

7. 公益目的支出計画事業の実施

一般財団法人への移行の際に作成した公益目的支出計画に則り、下記の事業を実施します。

(1) 中小企業等特許先行技術調査支援事業

(2) 「2024知財・情報フェア&コンファレンス」の主催及び「YEAR BOOK 2024」・「DESIGN PROTECT」の発行

(3) 産業・技術情報を人に理解しやすく、かつ、コンピュータ(機械)にも処理しやすく表現するための日本語(産業日本語)の研究とその普及

(4) AAMT/Japio特許翻訳研究会

2024年度収支予算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	2024年度 予算額	2023年度 予算額	増 減
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	(8,466)	(7,731)	(735)
基本財産受取利息	8,466	7,731	735
特定資産運用益	(3,790)	(5,348)	(-1,558)
特定資産受取利息	3,790	5,348	-1,558
会費収入	(15,532)	(19,500)	(-3,968)
賛助会費受取会費	15,532	19,500	-3,968
事業収益	(2,916,715)	(2,585,082)	(331,633)
特許情報調査等事業収益	1,863,419	1,827,918	35,501
特許情報加工・普及等事業収益	751,098	424,191	326,907
複写サービス等その他事業収益	302,198	332,973	-30,775
受取寄付金	(1,000)	(500)	(500)
受取寄付金振替額	1,000	500	500
雑収益	(19,166)	(10,278)	(8,888)
受取利息	19,166	10,193	8,973
雑収益	0	85	-85
経常収益計	(2,964,669)	(2,628,439)	(336,230)
(2) 経常費用			
事業費	(2,831,758)	(2,751,618)	(80,140)
特許情報調査等事業実施費	508,349	422,246	86,103
特許情報加工・普及等事業実施費	196,200	137,027	59,173
複写サービス等その他事業実施費	349,905	351,755	-1,850
事業人件費	1,596,805	1,649,762	-52,957
事業管理費	180,499	190,828	-10,329
管理費	(391,209)	(372,517)	(18,692)
人件費	216,108	213,057	3,051
その他管理費	175,101	159,460	15,641
経常費用計	(3,222,967)	(3,124,135)	(98,832)
当期経常増減額	(-258,298)	(-495,696)	(237,398)
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	(0)	(0)	(0)
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	(0)	(0)	(0)
当期一般正味財産増減額	(-258,298)	(-495,696)	(237,398)
一般正味財産期首残高	(5,627,410)	(6,123,106)	(-495,696)
一般正味財産期末残高	(5,369,112)	(5,627,410)	(-258,298)
指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	1,000	500	500
当期指定正味財産増減額	(-1,000)	(-500)	(-500)
指定正味財産期首残高	(1,000)	(1,000)	(0)
指定正味財産期末残高	(0)	(500)	(-500)
正味財産期末残高	(5,369,112)	(5,627,910)	(-258,798)

2024年度 収支予算書内訳表

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	実施事業等会計					その他会計	法人会計	合計
	先行調査	特情フェア ・YEARBOOK ・意匠専門誌	産業日本語	AAMT	小計			
一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益							(8,466)	(8,466)
基本財産受取利息							8,466	8,466
特定資産運用益							(3,790)	(3,790)
特定資産受取利息							3,790	3,790
会費収入							(15,532)	(15,532)
賛助会費受取会費							15,532	15,532
事業収益	(450)	(132)			(582)	(2,916,133)		(2,916,715)
特許情報調査等事業収益	450	132			582	1,862,837		1,863,419
特許情報加工・普及等事業収益						751,098		751,098
複写サービス等その他事業収益						302,198		302,198
受取寄付金						(1,000)		(1,000)
受取寄付金振替額						1,000		1,000
雑収益							(19,166)	(19,166)
受取利息							19,166	19,166
雑収益							0	0
経常収益計	(450)	(132)	(0)	(0)	(582)	(2,917,133)	(46,954)	(2,964,669)
(2) 経常費用								
事業費	(13,475)	(30,498)	(10,821)	(7,196)	(61,990)	(2,764,939)	(4,829)	(2,831,758)
特許情報調査等事業実施費	6,401				6,401	501,948		(508,349)
特許情報加工・普及等事業実施費						196,200		(196,200)
複写サービス等その他事業実施費		16,675	8,819	5,938	31,432	318,473		(349,905)
事業人件費	6,332	13,201	1,849	1,162	22,544	1,574,261		(1,596,805)
事業管理費	742	622	153	96	1,613	174,057	4,829	(180,499)
管理費							(391,209)	(391,209)
人件費							216,108	(216,108)
その他管理費							175,101	(175,101)
経常費用計	(13,475)	(30,498)	(10,821)	(7,196)	(61,990)	(2,764,939)	(396,038)	(3,222,967)
当期経常増減額	(-13,025)	(-30,366)	(-10,821)	(-7,196)	(-61,408)	(152,194)	(-349,084)	(-258,298)
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益						0	0	0
経常外収益計						(0)	(0)	(0)
(2) 経常外費用						0	0	0
経常外費用計						(0)	(0)	(0)
他会計振替額	(13,025)	(30,366)	(10,821)	(7,196)	(61,408)	(-410,492)	(349,084)	(0)
当期一般正味財産増減額	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(-258,298)	(0)	(-258,298)
一般正味財産期首残高	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4,025,452)	(1,601,958)	(5,627,410)
一般正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3,767,154)	(1,601,958)	(5,369,112)
指定正味財産増減の部								
一般正味財産への振替額	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1,000)	(0)	(1,000)
当期指定正味財産増減額	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(-1,000)	(0)	(-1,000)
指定正味財産期首残高	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1,000)	(0)	(1,000)
指定正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3,767,154)	(1,601,958)	(5,369,112)